

発表要旨

本発表は、日韓の外国語の受容に関する政策とその結果について考察したものである。日韓両国の語彙は、「和語/固有語」、「漢語/漢字語」、「外来語」に分けられるが¹、この中で「外来語」は他の語に比べ、日本語もしくは韓国語の語彙体系に属していないと思われる傾向がある。これを反映するように、日韓両国では外来語政策として「外来語をやさしい言葉で言い換える政策」を行っており、「外来語」に対応する「言い換え語」を提示している。しかし、「外来語」と「言い換え語」の中でどの語が実際に使われているのかについての研究はほとんど行われていない。したがって、本発表では「外来語」とその「言い換え語」の中で、現在、どの語がより多く使われているのかについて調査した。

本発表で研究対象としたのは次の2つの資料である。日本語の資料として利用したのは、2006年に日本の国立国語研究所で発刊された第4回『「外来語」言い換え提案』に収録されている35語である。韓国語の資料としては、同じく2006年に韓国の国立国語院で発刊された『外来語及び外国語の認知度調査報告書』に収録されている20語である。

研究方法は、まず各々の資料で提示している語が「外国語」に該当するか、もしくは「外来語」に該当するかを分類した。その基準を当時の国語辞書の収録の有無に定め、収録されている語は「外来語」に、収録されていない語は「外国語」に分類した。このように資料を整理し、現在は10年前と比べ、どの語がより多く使われているのかを検討した。まず、国語辞書にはどの語が載っているのかを調査し、2006年に提示した語の中で「外来語」として収録されている語の増減を確認した。また、新聞記事を中心に「外来語」と「言い換え語」の中でより多く使われている語はどの語なのかを調査し、語の使用頻度を調べた。そして最後に全ての調査結果をまとめ、日韓の外国語の受容結果とその変化の共通点と相違点について比較した。

¹ 日本語に対応する韓国語は固有語であり、漢語に対応するのは漢字語である。また外来語に対応する韓国語は日本と同じ言葉である外来語である。